

す が じん じゃ な ご し ま つ り
須賀神社 夏越祭

(「甘木はよかとしシリーズ」 から)

甘木（朝倉市）は、北部九州（福岡県）の内陸部に位置し、毎年大変暑い夏を迎えています。過去には日本の最高気温を記録したと報道されたこともありました。地域の人々は、この暑い夏を健康に過ごしたいという願いを持ち、それを神に祈る行事として「夏越祭」が昔から行われてきました。

須賀神社の「夏越祭」は、毎年、夏の終わり（7月31日）に行われます。

「夏越」の文字通り夏の終わりを告げる行事です。「夏越祭」は、「輪ごし」とも言われ、茅の輪（茅で作った直径2メートルほどの輪）をくぐり、神社にお参りして、無病息災（病気にかからず健やかに過ごすことができるように）を祈るのです。お参りする人は、「形代」（人の形をした紙）に家族の名を書き、疫病祓い、厄祓いのお願いをします。また、小さい茅の輪をお宮からいただき、家に持ち帰って無病息災の願いをこめて門口に飾り、魔除けとする風習もあります。



小さい茅の輪



句灯籠

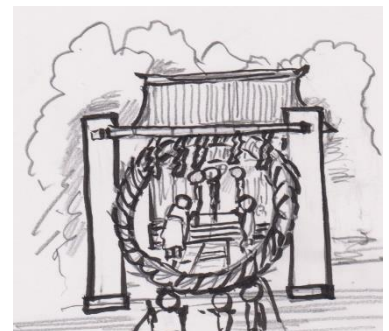
夏越祭には、恒例として「浦安の舞」（拝殿）、「日本舞踊」（舞台）、「生け花」（絵馬堂）が奉納されたり、句灯籠（俳句の書かれた灯籠）が参道から拝殿まわりに飾られたり、境内で「飴湯」（暑気払いのための夏の飲み物）がふるまわれたりなど、様々な催し物があります。屋台なども出て、賑やかな須賀神社のお祭りです。

※句灯籠は、甘木小の5・6年生が俳句や絵を描き、それを宮総代の方々に灯籠に貼り作成したものです。

どうして夏越祭で茅の輪をくぐるのでしょうか

なごしまつりち わ えんぎ
(夏越祭 茅の輪くぐりの縁起)

インドに、お釈迦様のために作られた祇園精舎という館がありました。その守り神の「牛頭天王」が妃を求めての旅に出た折、大変親切な兄弟に出合い大歓迎を受けました。牛頭天王は、兄弟の親切に感激し、「茅の輪」を与え、子々孫々まで無病・安全・長寿の加護を誓いました。そのことが民衆の強い信仰にな



り日本にも伝わってきました。

仏教が中国を経て伝わってくる中で、牛頭天王は薬師如来の化身の素戔嗚神すさのおのみことと習合しゅうごうし全国に広まり、その強力な力を信仰し、疫病えきびょう祓ばらいいの神として崇あがめられるようになりました。これが「夏越祭」で参道の大きい茅ちの輪わをくぐって参詣する習わしとなっています。

インドの牛頭天王ごずてんのうは、日本では素戔嗚神すさのおのみことであり、須賀神社の祭神が「祇園様ぎおんさま」と呼ばれる所以ゆえんです。